



市民ネットワーク鶴ヶ島は  
大野ひろ子を  
市議会に送っています

ネ	ツ	ト
通	信	NO. 17

9月議会報告 2015.10  
発行 / 市民ネットワーク鶴ヶ島  
鶴ヶ島市富士見2-12-15



<http://www.tsuru-net.org/>



# 18歳選挙権、 政治への影響



2015年6月17日、選挙権年齢を現在の20歳以上から18歳以上に引き下げることが、国会で決まりました。有権者約1億348万人のうち20〜39歳は約2900万人でしたが、70年ぶりの改正で、約240万人が新たな有権者となります。

「若者の声を政治に反映できる仕組みをつくる」ことを目的としています。

## 若者の投票率を上げる

国政選挙で、50歳代以上の投票率は60%〜70%、20歳代は30%です。

デンマークは、若者の投票率が80%近くあり、政治意識が高いことと有名です。その大きな理由は、日常的に家族や知り合いと、社会の問題や政治について議論しているからとのこと。

政治について考えることが、生活の中で育まれているのです。

18歳なら進学や就職で家を離れる前に、生まれ育った地域で投票に行くことができます。故郷の将来を考えて、身近な選挙に参加する若者が増えることを、期待したいと思います。

## 学校での主権者教育

9月14日文科科学省の学校現場に対する新通知案によれば、校内の政治活動は原則禁止するが、放課後や休日に校外で行う政治活動を生徒が自主的、主体的に判断して行うものとして容認しています。1969年に、学校の内外を問わず政治活動を禁止してから46年ぶりとなります。

若い頃から政治を自分の事として捉え、積極的に参加しようという意識が、民主主義を育て持続させるのではないのでしょうか。

今回の改正を契機に、学校でも、憲法でうたわれている平和で民主的で、文化的な国家を担う主権者を育てる教育を推進すべきだと考えます。

安全保障関連法案は衆参両院で合計216時間の審議を費やしましたが、議論が深まらないまま9月19日未明に成立しました。

与党と野党の投票率の差はおおよそ9〜10%台を推移しています。今こそ、サイレント・マジョリティ（物言わぬ多数派）の明確な意思表示が求められています。